

それが簿記です。

ものづくりのための簿記は、工業簿記といいます。

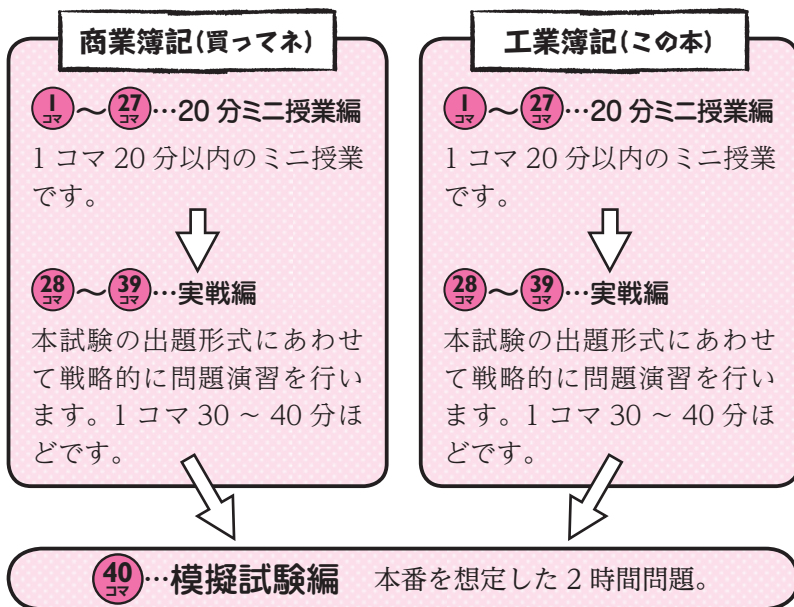
真実の原価を計算して、記録するものです。

さらに、真実の原価を計算していると、
ものづくりに役立つ色々な情報も手に入ります。

工業簿記を勉強する上では、
ものづくりをしている経営者になったつもりで
ストーリーを考えてみてください。

●合格までの道のり●

日商簿記2級合格までのカリキュラムは以下のとおりです。



20分ミニ授業編のうけ方

自分が経営者になったつもりで読んでみてください。

実戦編・模擬試験編のうけ方

実戦編からは電卓とペンを用意して、実際に手を動かしてもらいます。

ここから先は、少し気合を入れて勉強してください。

実戦編のガイダンスは②⑧コマでまたやります。

※オマケの過去問は商業簿記編は133回、工業簿記編は135回がついています。



●学習計画あれこれ●

1日に何コマ勉強するとか、
空いた時間を利用して勉強するとか、
自分にあった学習計画を立ててみてください。

●日商簿記2級について●

日商簿記2級の試験は全5問構成です。
工業簿記は第4問と第5問で出題されます。
第1問～第3問は商業簿記です。
最初にゴールをみておくのはとても大切なことです。
勉強を始める前にオマケの過去問に目をとおして
本番がどういう形式で出題されるかみておいてください。

詳しい試験情報は、**28**で紹介します。

●キャラクター紹介●



ネズミの店主

はつかネズミのわるガキ。
ケーキ工場を所有する
チュー忠商事の経営者にして、
本編の主人公。



子分の子ネズミ

ネズミの店主の右腕。



ニワトリの工場長

ケーキ職人にして、
ケーキ工場の責任者。

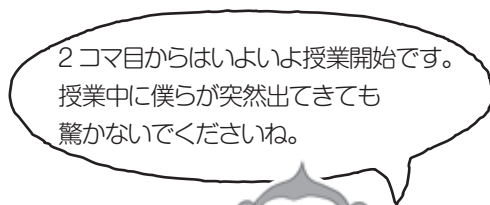


ケーキ工場の^{こういん}工員さんたち



カピバラ

本書のナビゲーター役
その1。



2コマ目からはいよいよ授業開始です。
授業中に僕らが突然出てきても
驚かないでくださいね。



ウータン

本書のナビゲーター役 その2。

合格の樹

学習進度にあわせて
育ちます。

2
コマ

ものを作ればコストもかかる

～2級・商業簿記編までのあらすじ～

チュー忠商事は、もともとは小さな八百屋でした。

それが今では成長し、商業簿記編 **17** コマでは

ケーキ屋さんに対する M&A (合併・買収) を成立させ、

ケーキの製造・販売を行うようになりました。

2級商業簿記

17
コマ より

店主のためなら…



チュー忠商事の
ケーキ屋部門
となりましょう

チュー忠商事 B/S

(資産)	(負債)
	(純資産)

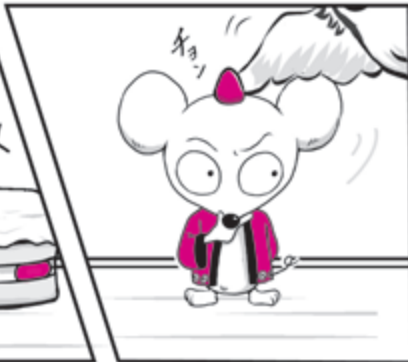
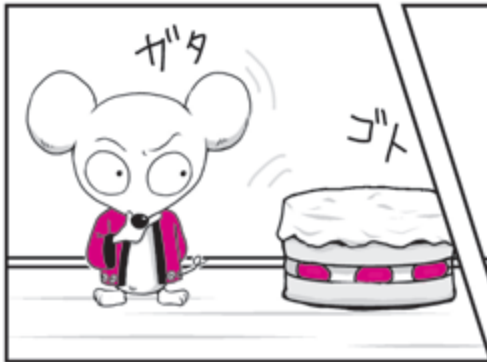
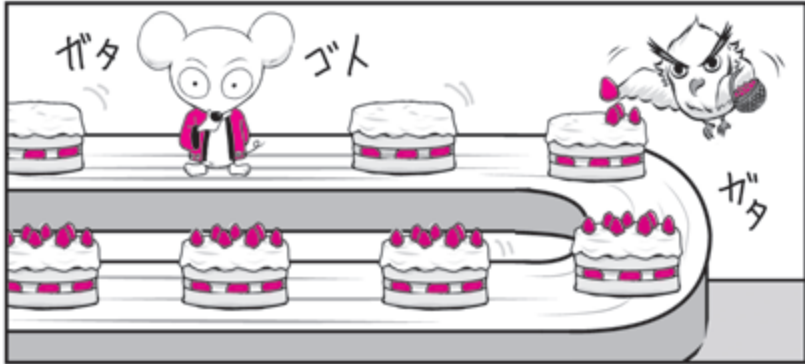
ヒヨコ(株) B/S

(資産)	(負債)
	(純資産)

みゆい〜ん



ケーキ工場
にて…



材料費・労務費・経費

2

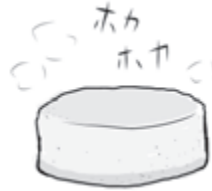
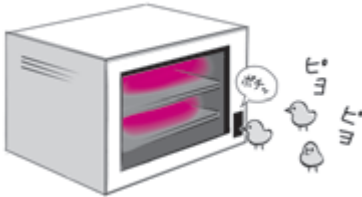


ケーキ1個分のレシピ

- 1 卵3個、薄力粉90グラムに砂糖90グラム、バター30グラムを加えて、もったりするまでかきまぜる。



- 2 オーブンで焼いて、スポンジにする。



- 3 できあがったスポンジを2枚に切り、シロップ(少々)を塗る。



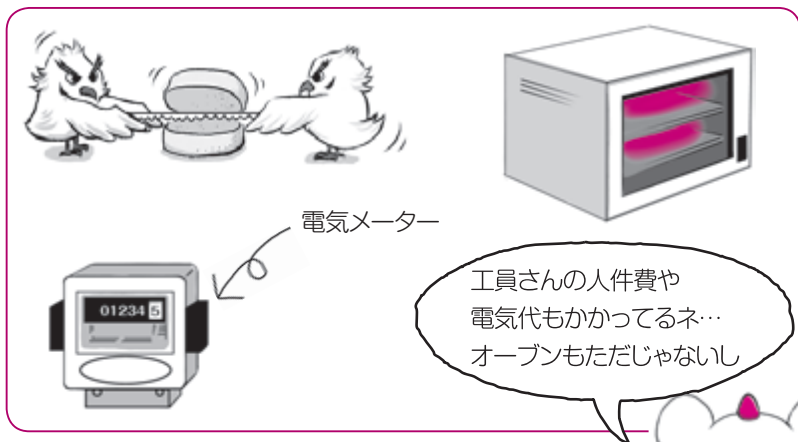
- 4 生クリーム(300cc)とイチゴ(10個)を、塗ったりのっけたりする。



ケーキの製造・販売に乗り出したチュウ忠商事。
まず、ネズミの店主はケーキを1個作るのに、
いくらコストがかかっているか調べてみようと思いました。



材料だけでこれだけ
お金かかっているけど…



ケーキを1個作るのにかかるコストを計算するのも、
なかなか簡単にはいかないようです…。

材料費・労務費・経費

2



商業簿記では、仕入れたものをそのまま売っていたので、商品の仕入れた値段(原価)はわかりやすいものでした。

しかし、作って売っているととなるとそう簡単にはいきません。ケーキを売ったらその原価はいくらなのか、ケーキを作るためにかかったコスト(製造原価)を計算する必要が出てきます。

そこで工業簿記の出番です。

簿記は、会社の真実を記録する超便利ツールです。

工業簿記では、真実の原価を計算し、記録します。



これを「原価計算」といいます。

さあ、真実の原価を計算するために、工業簿記を勉強していきましょう。

ちなみにそのケーキって1個いくらで売るのがね?



1個1,000円です



工業簿記では、
未完成のケーキのことを
『仕掛品』といいます。



完成したケーキは、
『製品』といいます。

卵や薄力粉などの材料を加工して、
ケーキが何個完成して、何個売れたかは
1カ月単位で計算します。



このように、工業簿記では
製造原価を計算する単位は1カ月です。
これを**原価計算期間**といいます。



ケーキを作るのにかかるコストは 材料費、労務費、経費に分けて考える

ケーキのレシピをみると、出来上がるまでには
色々なコストがかかることがわかります。

卵や薄力粉、イチゴにシロップ、

フクロウの工員さんの給料や

ケーキ工場の電気代など、様々です。

これらのコストは、まず「材料費」・「労務費」・「経費」の
3種類に分けて考えます。

材料費

まずは^{ざいりょうひ}材料費です。

ケーキを作るためにかかったコストのうち、卵代など
「モノ」にかかった費用を材料費といいます。



これらはすべて「モノ」にかかった費用なので、材料費です。

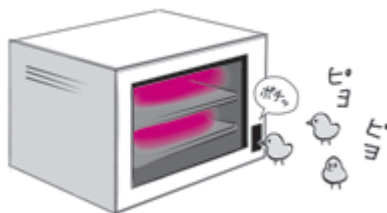
労務費

つぎに^{ろうむひ}労務費です。

ケーキを作るためにかったコストのうち、工員の人件費など「ヒト」にかかった費用を労務費といいます。



切ったり

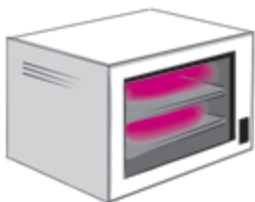


スイッチ押したり

経費

さいごに、^{けいひ}経費です。

ケーキを作るためにかったコストのうち、**材料費にも労務費にも該当しなかったその他の費用**を経費といいます。



オーブンの減価償却費や、
ケーキ工場の電気代などが経費です。

材料費・労務費・経費

2



材料費、労務費、経費を さらに直接費と間接費に分ける

「材料費」・「労務費」・「経費」は、さらに
直接費と間接費の2つに分けて考えます。

直接費

直接費は、ケーキを1個作るのにいくらかかったかが
明らかなコストをいいます。



ケーキ1個
に対して



卵 3個



薄力粉 90g



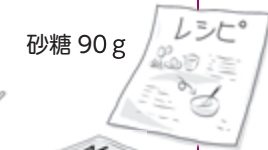
砂糖 90g



イチゴ 10個



生クリーム
300cc



バター 30g



フクロウの工員さんの作業
10分

“ケーキ1個にひもづけ(直接集計)できるコスト”
が直接費ともいえます。

間接費

間接費は、複数のケーキに共通してかかったコストです。

ケーキを1個作るのに対していくらかかったかが、よくわかりません。



“ケーキ1個にひもづけ(直接集計)できないコスト”が間接費です。

あるいは、ケーキ1個にひもづけするのが面倒だったり、ひもづけする意味がないコストが間接費と考えておいてください。



結局6つに
分類される

- 材料費
 - 直接材料費
 - 間接材料費



- 労務費
 - 直接労務費
 - 間接労務費



(フクロウの工員の
人件費)



(ヒヨコの工員の
人件費)

- 経費
 - 直接経費
 - 間接経費

該当するコストなし



こうして分類した費用をもとにケーキ
1個あたりの原価を計算していきます

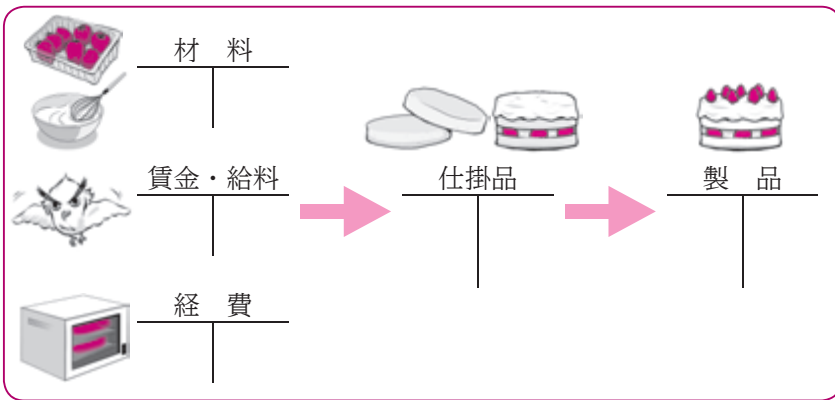


工業簿記は、変わり者！？

ケーキ工場では卵やイチゴ、生クリーム等を加工して、
工員さんがケーキを作っています。

工業簿記は、その真実の原価を記録していきます。

これを記録する！！



ケーキを作るのには様々なコストがかかるので、
まずはそれを6つに分類しました(左のページ参照)。
そして、ケーキが徐々にできあがっていくにつれて、
それらのコストを製造原価として集計していきます。

このときの、集計していく作業に工業簿記の特徴があります。

**ケーキを作っている流れのように製造原価を記録するので、
勘定から勘定へと、流れるように集計します。**



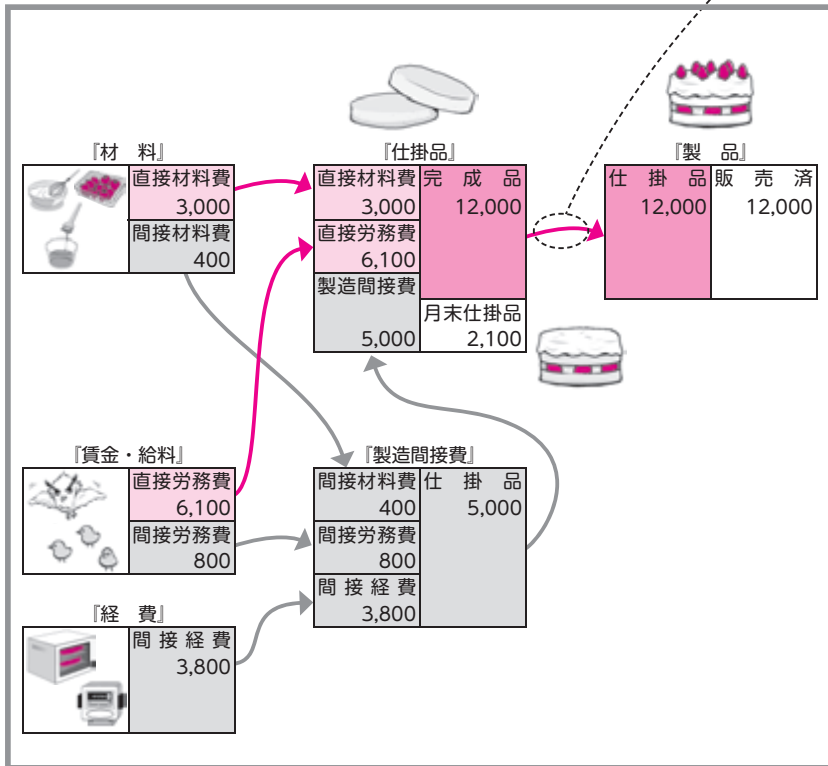
商業簿記との最大の
違いはここですよ

ちょっと
変わってるんです



工業簿記では、各勘定に製造原価を集計します。
 ケーキができあがるにつれて集計場所は変わります。
 そこで、製造原価を「右へ右へ」と流していく要領になります。
 その流れを示した図を、「^{かんじょうれんらくず}勘定連絡図」といいます。

いずれ出てくる工業簿記の勘定連絡図 !!



今はまだなんとなく眺めておくだけでいいですよ

勘定科目もまだ覚えなくていいです



工簿で「??」ってなる人は、この商簿との違いが原因ってことが多いんです…

出てくる仕訳も、商業簿記とは少し異なります。

たとえば(ココ)の仕訳は

(借) 製	品 12,000	(貸) 仕	掛 品 12,000
-------	----------	-------	------------

となります。

『仕掛品』勘定から『製品』勘定へ製造原価 12,000 円を流したことを意味する仕訳です。

勘定連絡図とその仕訳が工業簿記の特徴といえますが、

3コマ～13コマでは原価の計算の話を中心に勉強します。

勘定連絡の話は
眠くなりますからね!



まとめ
20分間授業で
おさえる内容

- ・ 製品の製造原価には色々あるので、
まず、材料費・労務費・経費に分ける。
- ・ さらに、それぞれを直接費と間接費に分けるので
6つに分類できる。

	製品 1 つにいくら かかったか明らか	製品 1 つにいくら かかったかわからない
材料費	直接材料費	間接材料費
労務費	直接労務費	間接労務費
経費	直接経費	間接経費

- ・ 工業簿記の特徴は、勘定連絡とその仕訳。

材料費・労務費・経費

2